



法文学部・観光産業科学部 改組計画(案)

平成29年4月4日・5日
琉球大学

※本資料中の学部・学科等名称はすべて仮称です

※本計画の内容は予定であり、変更する場合があります。

改組の趣旨及び必要性

社会的背景

(1)世界的潮流

- ・急速なグローバル化の進展、ICT技術の進展
- ・2030年に求められる能力と教育のあり方関する国際的な共同活動の進展(OECD「Education 2030」:社会の変化と教育改革の必要性)
- ・政治、社会、経済の不安定化
- ・地球規模の環境問題 等

(2)日本の現状

- ・少子高齢化の進展による人口減少(労働力不足)
- ・格差拡大等による地域コミュニティの衰退(子どもの貧困、他)
- ・財政状況悪化
- ・自然災害対策
- ・地方創生に向けた政策展開
- ・観光立国を目指した取組み強化

(3) 沖縄の現状

- ・リーディング産業(観光、物流、ICT等)による地域振興の推進(国の先行モデル)
- ・子どもの貧困、学力向上、低い大学進学率、地域医療、他への取組
- ・中小企業が中心の産業構造(雇用と供給のミスマッチ、他)
- ・沖縄21世紀ビジョンに加え、沖縄県アジア経済戦略構想の策定

本学の課題

(1)日本の高等教育に共通する観点から

世界で活躍できるリーダーシップの能力を備えたグローバル人材を育成するため、抜本的な教育改革(高大接続改革、他)

(2)国立大学として「地域の中核的拠点大学」の確立の観点から

- ①政治・経済・文化・社会活動分野等で存在感をもって国際的な視野と経験を有し、沖縄をはじめとする地域や日本国内で活躍できるグローバルリーダー人材の育成
- ②地域との連携による地域特性を活かした教育研究の推進とその成果の組織的な還元
- ③地域振興策である「沖縄21世紀ビジョン」の実現に向け、全学的レベルで体系的かつ組織的な具体的貢献施策の実行

(3)上記の課題に対応した学内資源の再配分及び教育研究組織の見直し

- 工学系及び農学部、教員養成系について改組計画(平成29年度4月実施)
- 人文社会科学・学際系についても速やかに改組を実行し、教育改革を全学的に推進する必要性がある。

解決の方向性

「地域の中核的拠点大学」を目指し、これまでの本学の教育改革(URGCC)での「21世紀型市民の育成」の進化形として、地域振興を担う人材の育成及び地域の学びと活性化の拠点形成を担う人材育成への教育改革に乗り出す。これに向けて、ニーズを踏まえた資源の再配分を実行し、教育改革と研究推進の成果の最大化に向けて継続的に取り組む。

(1)人材育成の方向性

- ①未来社会で活躍できる基盤的な能力(コンピテンシー)や知識を備えた人材の育成を行うべく、高大接続改革、地方創生への取組、OECD Education2030等を踏まえつつ、教育改革を実行
- ②教育の国際化を目指し、留学・インターンシップ等の学外学修機会の拡充、地域や産学官と連携した教育を推進
- ③教育の内部質保証の仕組み構築

(2)研究推進の方向性

- ①本学ならではの地域特性を踏まえた強み・特色ある研究の推進
- ②産学官連携による共同研究等の拡充

(3)上記(1)、(2)を実現するため、教育研究組織の見直しを実行

→人文社会科学・学際系の学部について、学内資源の再配分に基づいて、新たな学部を構築する。

人文社会科学・学際系学部を巡る状況と求められる人材像

【OECD Education2030】

- 我が国もOECDの取組に参画(2030年に向けた教育の在り方に関する第2階日本・OECD政策対話 H27.6.29)
- ①知識(Knowledge)、②スキル(Skill)、③態度及び価値観(Attitudes and Values)の3分野を最上層の概念として設定した上で、コンピテンシーは、知識、スキル、態度及び価値観を包含するものとして整理
- キー・コンピテンシーは、初等中等、高等教育、成人教育においてもそれぞれの発達段階に応じたキー・コンピテンシーの獲得が必要。中等教育段階を中心として、職業教育・訓練を含めた全教育段階を視野に入れて議論中

【高大接続改革】

- 初等中等教育から高等教育への連続した学びとして、入試改革から教育改革へと繋げる改革
- 学位授与・カリキュラム・入学者選抜に関する3つのポリシーの策定と公表(2017年度~) → 学位に相応しい能力を明確にした上で、必要なカリキュラムや入学者選抜の在り方を考えることであり、コンピテンシーの理念に通じる考え方
- 大学教育に求められるもの
 - ・学士段階での専門性に基づく能力やスキルの明確化、各学問分野における専門性に基づく能力やスキルの再整理
 - ・学士、修士、博士と教育段階のアップに伴う、高度な専門性に裏付けられた能力

【地方創生】

- 国が国際競争性を持ち、豊かになるためには、「地域が豊かになること」が基盤
- 地方国立大学のミッション: 地域ニーズにタイアップした人材育成、生涯にわたる学びを通じて豊かな人生を求めていく人々にとって学びの拠点形成、地域活性化の拠点(COC)の形成
- 地域の人材ニーズ
 - ①専門分野での鍛錬を基盤に学び続けて社会変化に適応していく人材
 - ②沖縄の基幹産業(観光、物流、ICT等)を担う高度人材
 - ③産業発展と地域の伝統・文化・人的繋がりと調和ある振興政策を担う高度人材
 - ④アジア・太平洋地域を視野に、国際感覚を持って地域振興に尽くす人材

名称等	沖縄21世紀ビジョン基本計画 県民が描く将来像の実現を目指し、県が主体的に策定する計画(平成24~33年度)	
目標	県民が描く5つの将来像の実現 <ul style="list-style-type: none"> ● 沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島 ● 心豊かで、安全・安心に暮らせる島 ● 希望と誇り・安心と信頼を育む島 ● 世界に開かれた交流と共生の島 ● 多様な能力を発揮し、未来を拓く島 	4つの固有課題の克服 <ul style="list-style-type: none"> ● 基地問題の解決と駐留軍用地の活用 ● 離島の平利性克服と国際義務 ● 海洋防災・環境・沖縄を結ぶ交通ネットワークの構築 ● 地方自治体大への対応
施策展開の基軸等	潤いと活力をもたらす 沖縄らしい優しい社会の構築 (県民にやさしい暮らしと活力をもたらし、経済発展を促す) <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもが豊かに生まれ育つ環境の整備 ● 伝統文化の継承・交流・次世代継承 ● 豊かな自然環境の保全 ● だれもがいきいきと暮らせる生活空間の整備 ● 沖縄らしい「風雲」をもちぬく ● 人間関係の再生を促す ● 高齢者・若者・外国人の共生 ● 地域コミュニティの構築 ● 災害に強い島づくり 	日本と世界の架け橋となる 強しなやかな自立型経済の構築 (生み出された利益は、優しい社会の構築へ還元) <ul style="list-style-type: none"> ● アジア観光の経済発展基盤の整備 ● 観光振興の取組の強化 ● 情報連携推進産業の高度化・多様化 ● 臨空・臨海産業の集積 ● 知的・産業クラスターの形成 ● 文化・スポーツ等を活用した新たな産業の創出 ● 偏見生活を支える中小企業の振興 ● 農林水産業の振興 ● 雇用対策と多様な人材の確保

◆ 21世紀ビジョン基本計画で見えてきた、新たな地域課題

- ①アジア経済戦略構想の実現による経済活性、②雇用の質改善、③地方創生(バランスの取れた人口の維持・増加)、④離島観光の振興、⑤**沖縄振興の基盤となる人材育成**、⑥子供の貧困対策、⑦TPP、オリンピック、伝統、空手振興等

国際地域創造学部

グローバルな視野を持ち、産業、地域および文化の振興と多様化する地域課題の解決を担う実践的な能力を有する人材

産業振興

- ◆ **リーディング産業**(観光、情報通信、金融等)を担う実践人材
- ◆ 幅広い知識と**マネジメント能力**を有し、新たな産業を創出できる人材

地域振興

- ◆ 幅広い知識を持ち、**地域課題解決**に貢献する人材
- ◆ 地域における多様な**人的連携**ができる人材

文化振興

- ◆ 多様な文化や価値観を理解し、**グローバルな視点**から地域における文化の保全・継承・発展・創造に貢献する人材

地域が求めている人材

平和共生

- ◆ 多様な**社会や文化と共生**しつつ、平和な共生社会の構築に貢献できる人材
- ◆ **沖縄・地域社会の理解に基づく視点**からグローバルな課題に取り組める人材

豊かな精神性

- ◆ 社会的弱者に配慮した、心豊かで、**安心・安全に暮らせる社会の構築**に貢献できる人材

沖縄らしさ

- ◆ **沖縄・琉球を始めとする地域社会の文化**を深く理解し、その継承発展に貢献できる人材

人文社会学部

人文社会系の専門的知と学際的知を基盤に、多様な社会や文化と共生しつつ、沖縄を始めとする地域社会の持続的発展に貢献できる人材

新たな学部の方角性

国際地域創造学部

グローバルな視野を持ち、産業、地域および文化の振興と多様化する地域課題の解決を担う実践的な能力を有する人材を育成。実践的教育、教職課程の総合化などが特色。

人文社会学部

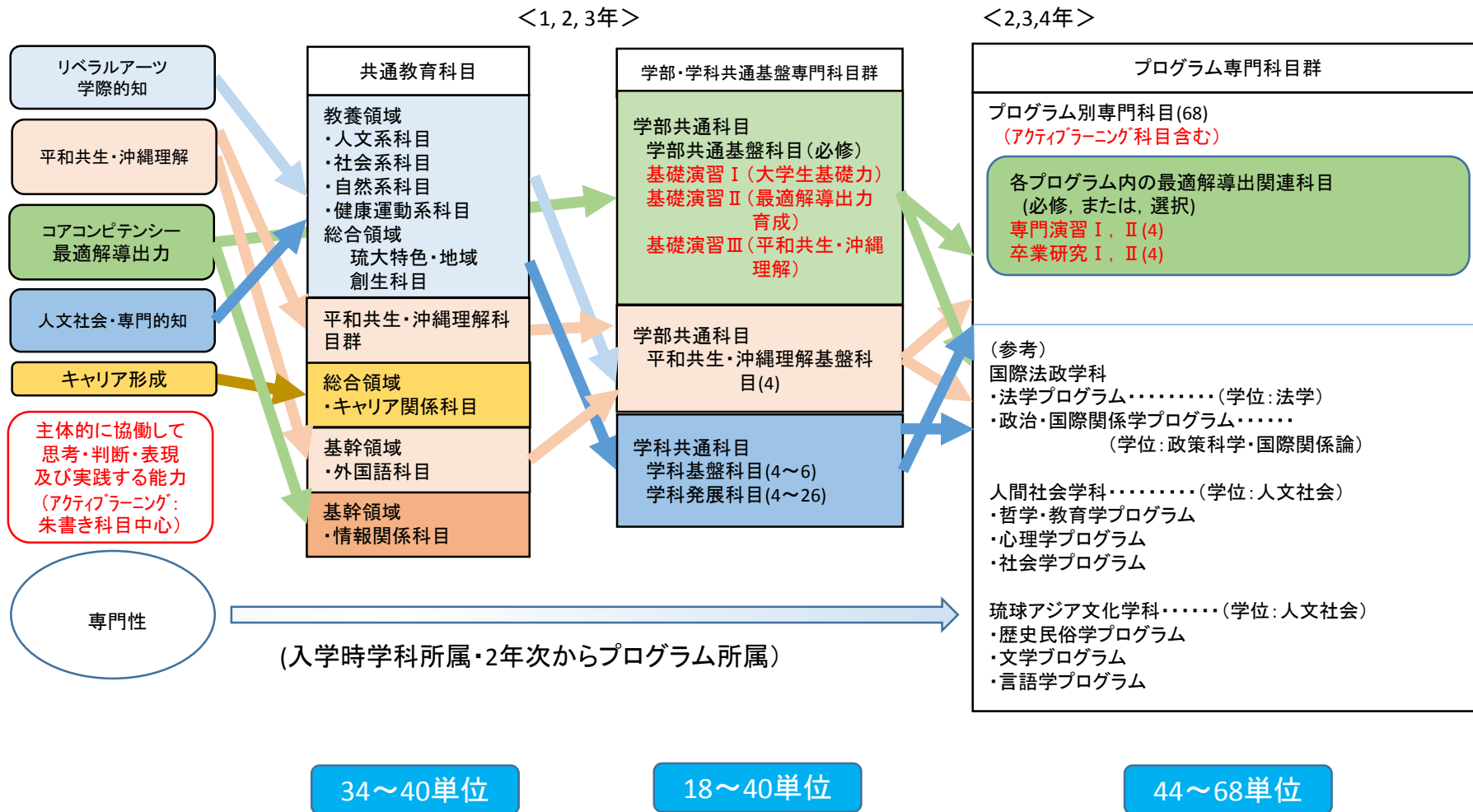
人文社会系の専門的知と学際的知を基盤に、多様な社会や文化と共生しつつ、沖縄を始めとする地域社会の持続的発展に貢献できる人材を育成。平和共生・沖縄理解科目群の設置や専門的人材の育成を見据えた教育などが特色。

○共通の方角性

「大学教育によって学生が何を身に付けたか」という、インプットからアウトカム(学修成果)への抜本的な教育の質の転換。そのためのコンピテンシー・ベースのカリキュラムの構築。

- ・4つのコンピテンシー(①ロジカルシンキング、②クリティカルシンキング、③クリエイティブシンキング、④コミュニケーション力)

人文社会学部の教育カリキュラム構成



○「コア・コンピテンシー・最適解導出力育成」, 「平和共生・沖縄理解」のための学びの場の提供

- ・すべての学部学生が以下の科目を修得
 - 1.大学での学修を促進させるコア・コンピテンシーを育成するための基盤科目（1年次）
 - 2.現代社会の問題解決のための最適解導出力を育成する科目（2年次）
 - 3.沖縄をはじめとする地域社会の価値観や文化を深く理解し、多様な社会や文化との共生やそれらを存続・発展させる能力を育成する体系的な科目群の提供
 - 1) 学部共通基盤科目：平和共生・沖縄理解演習（1年次）
 - 2) 共通教育科目平和共生・沖縄理解科目群（1年～3年次）
 - 3) 平和共生・沖縄理解基盤科目（2年～3年次）
 - 4) 学科基盤・発展科目（1年～3年次）

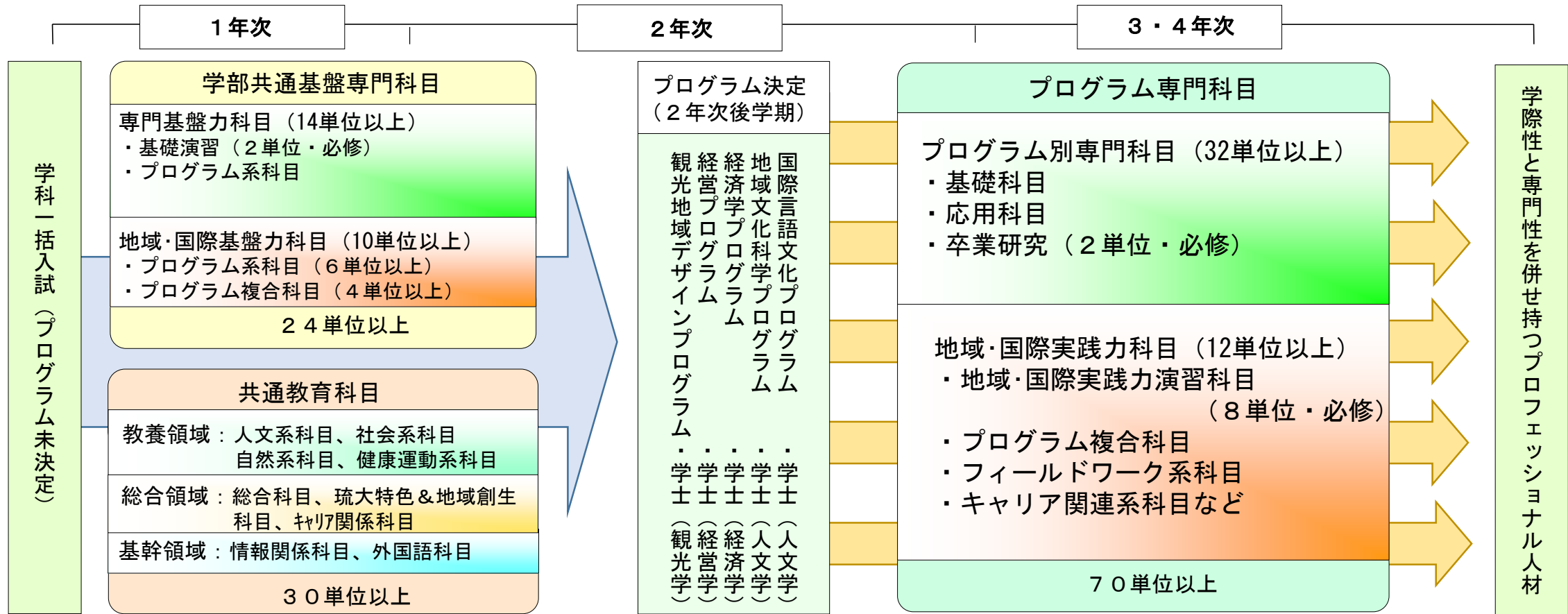
○専門プログラムによる「専門的知の修得」とそれらの「活用・実践」につなげる学びの場の提供

- ・専門的知の学びと実践的な学びとの相互の促進を図る試み
各専門プログラムでのフィールドワーク科目や実践的科目の提供（2～4年次）
- ・これまで培った専門的知と最適解導出力, コア・コンピテンシーをもとに平和共生・沖縄理解を一層促進させる試み
専門演習, 卒業研究（3年～4年次）

卒業要件 1 2 4 単位

共通教育34～44単位, 学部共通10単位, 学科共通8～30単位,
プログラム別40～68単位

国際地域創造学部 of 教育カリキュラム構成



【注】

1. 上記カリキュラムは、昼間主コースの場合です。
2. 所属するプログラムは、2年次後学期前に、本人の希望と1年次及び2年次前期の成績等に基づき各プログラムに配属します。
ただし、プログラム配属は、1年次及び2年次前期における成績やプログラムの受け入れ人数等の関係で、全学生の希望どおりとならないこともあります。
3. 夜間主コースの場合、プログラム決定は1年次終了時となり、履修条件も若干異なります。

国際地域創造学部の教育カリキュラムの特色

- 多様化する地域課題の解決と未来社会のデザインを担う実践的人材の育成を目指します。
- 5領域の組織構成を生かした「学部共通基盤専門科目」を設定し、幅広い基礎知識と基礎的実践力の習得機会の拡充をはかります。

学部共通基盤専門科目

① 科目の特徴

1) 基礎演習(必修・2単位)

- ・情報検索やレポート作成、プレゼンなどの初年次教育科目

2) 専門基盤力科目(14単位以上)

- ・専門知識の基礎を習得し、専門分野の体系的習得の基盤力の獲得を目的とした科目

3) 地域・国際基盤力科目(10単位以上)

- ・地域から世界、世界から地域、という双方向性から、地域・国際的な課題・問題に挑戦し学び、課題を理解し、多様性に挑戦することができる基盤力の獲得を目的とした科目
- ・当科目で培った基盤力を発展させ、実践力の獲得をめざす目的で、高年次に地域・国際実践力科目も配置

② 科目の構成

1) 基礎演習(必修・2単位)

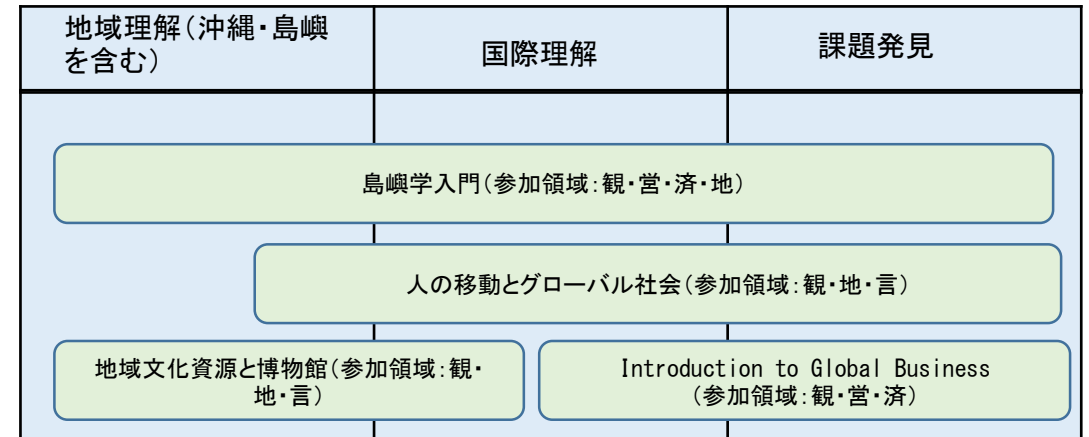
2) プログラム系科目(6単位以上)

- ・5領域の組織構成を生かし、各領域の目的(学位)に沿い、専門的見地からの基盤力の獲得を目的とした科目
- ・各プログラム単独で提供する科目

3) プログラム複合科目(4単位以上)

- ・5領域の組織構成を生かし、3つの観点(地域理解(沖縄・島嶼を含む)・国際理解・課題発見)を横断的網羅し、学際的汎用的見地から、学際的な基盤力の獲得を目的とした科目
- ・プログラム協働(オムニバスなど)で提供する科目

(プログラム複合科目の提供形式・科目名(例示))



※参加領域: 観=観光地域デザインプログラム、営=経営プログラム、済=経済学プログラム、地=地域文化科学プログラム、言=国際言語文化プログラム

琉球大学 人文社会学部

現状(改組前)

法文学部(昼間主345)

【総合社会システム学科(170)】

法学専攻	55
経済学専攻	65
政治・国際関係専攻	50

【人間科学科(95)】

人間行動専攻	31
社会学専攻	32
地理歴史人類学専攻	32

【国際言語文化学科(80)】

琉球アジア文化専攻	32
英語文化専攻	36
ヨーロッパ文化専攻	12

<参考:法文学部(夜間主60)>

経済学専攻	30
英語文化専攻	30



改組後

人文社会学部(200)*昼間主のみ

【国際法政学科(80)】

法学プログラム	40	学士(法学)
政治・国際関係学プログラム	40	学士(政策科学・国際関係論)

【人間社会学科(80)】

哲学・教育学プログラム	18	学士(人文社会)
心理学プログラム	30	学士(人文社会)
社会学プログラム	32	学士(人文社会)

【琉球アジア文化学科(40)】

歴史・民俗学プログラム	14	学士(人文社会)
言語学プログラム	13	学士(人文社会)
文学プログラム	13	学士(人文社会)

<参考:国際地域創造学部(昼間主)>

⇒経済学プログラム	65	学士(経済)
国際言語文化プログラム	48	学士(人文)
地域文化科学プログラム	32	学士(人文)

人文社会学部の養成する人材像

1. 人文社会系の専門的知と学際的知を基盤に、多様な社会や文化と共生しつつ、沖縄を始めとする地域社会の持続的発展に貢献できる人材を養成する。
2. 個人の尊厳と基本的人権を尊重し多様な価値観や文化と共生できる能力、変化の激しい現代社会の問題に対する最適解を導き出すために、必要な情報を効果的に収集し、分析・評価・活用し、主体的に協働して、思考・判断・表現及び実践できる能力を身につけさせる教育・研究を行う。

人文社会学部アドミッション・ポリシー

- 1 大学における人文社会分野の学びの土台となる高校での学習内容に関する基礎的な力を有する人
(知識・技能)
- 2 答えが定まらない問題に自ら解を見出していく基礎的な力を有する人 (思考力・判断力・表現力)
- 3 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度・スキルを有する人 (主体性・協働性)
- 4 人文社会学部の学問分野に対する強い関心と学びの意欲を有する人 (目的意識)

◆ 一般入試前期日程《基礎学力・思考力重視型》

- 十分な幅広い基礎学力をみるため大学入試センター試験を課します。
- 個別学力試験では、国際法政学科は外国語能力(英語)、人間社会学科および琉球アジア文化学科では思考力・判断力・表現力(小論文、面接)をそれぞれを評価します。

◆ 一般入試後期日程《基礎学力・人物・興味関心重視型》

- すべての学科において基礎学力をみるため大学入試センター試験を課します。国際法政学科では、特に文系科目の学力を評価します。
- 個別学力試験では、国際法政学科は思考力・判断力・表現力(小論文)、人間社会学科および琉球アジア文化学科では主体性・協働性・目的意識(面接、口頭試問)を評価します。

◆ 推薦入試Ⅱ《基礎学力・人物、専門的興味関心重視型》

- 十分な基礎学力を有し、高等学校において優秀な成績を修めたかどうかをみるために大学入試センター試験を課します。
- どの学科も、主体性・協働性・目的意識(面接)を評価します。国際法政学科と琉球アジア文化学科では思考力・判断力・表現力(小論文)も評価します。
- 人間科学科については、各プログラム毎に募集します。

なお、面接試験では、調査書、志願理由書も活用し、総合的に評価します。

上記以外に、私費外国人留学生入試、帰国子女特別入試、3年次編入学試験を実施する予定です。

琉球大学 国際地域創造学部

現状(改組前)

法文学部

経済学専攻 65
地理歴史人類学専攻 32
英語文化専攻 36
ヨーロッパ文化専攻 12
国際言語文化学科(夜) 30

観光産業科学部

観光科学科 60
産業経営学科(昼) 60
産業経営学科(夜) 20



改組後

国際地域創造学部(345)*夜間主含む

観光地域デザインプログラム	60	学士(観光学)
経営プログラム	60	学士(経営学)
経済学プログラム	65	学士(経済)
国際言語文化プログラム	48	学士(人文)
地域文化科学プログラム	32	学士(人文)
経営プログラム(夜)	20	学士(経営学)
経済学プログラム(夜)	30	学士(経済)
国際言語文化プログラム(夜)	30	学士(人文)

国際地域創造学部の育成する人材像

1. 地域の中核的拠点大学を目指す本学において、グローバルな視野を持ち、産業、地域及び文化の振興と多様化する地域課題の解決を担う実践的な能力を有する人材を養成する。
2. 学生は複合分野(観光, 経営, 経済, 文学・言語, 地理歴史・人類学・博物館学)の学際的学びや、各専門分野における体系的な学びを通して、新学部におけるコア・コンピテンシーである「専門基盤力と地域国際基盤力」を身につけ、複雑化・多様化する国際及び地域課題に挑戦し、解決する高い専門能力を修得する。

- ①地域の文化・社会について多様な学問的見地から興味を持ち、主体性をもって課題に取り組み、そしてより良い課題解決のために様々な立場の人々と意見を交換しつつ実行することができる人。
- ②現代の地域・国際社会をめぐる多様な課題に対して関心を持ち、自らの感性と経験をとおして他者や社会へと関わり、得られた知見を社会全般に還元する態度を備えている人。
- ③21世紀型市民として必要な学際的教養を身につける意欲を持ち、他者や異文化の持つ多様な価値観に対して柔軟な態度を身につけている人。

昼間主

・一般入試(前期日程) :《基礎学力・思考力重視型》

基礎学力をみるため大学入試センター試験(6教科6科目もしくは6教科7科目、又は5教科6科目もしくは5教科7科目)を課し、個別学力試験では3つの方式に分けて多様な個性と思考力を評価します。

A方式(国際的思考系): 英語(英語運用能力と国際的課題をめぐる思考力を問う問題)

B方式(論理的思考系): 小論文(論理的思考を測る小論文問題)

C方式(数学的思考系): 数学(数学的思考力を測る数学の問題)

・一般入試(後期日程)《総合的な学力重視型》

総合的な学力をみるため、大学入試センター試験(6教科6科目もしくは6教科7科目、又は5教科6科目もしくは5教科7科目)、個別学力試験を(国際的思考系)と(論理的思考系)に分け、多様な個性と総合的な学力を重視して選考します。

A方式(国際的思考系): 小論文(英語資料読解による小論文問題)

B方式(論理的思考系): 小論文(論理的思考を測る小論文問題)

・推薦入試 I《人物・意欲重視型》

学びに対しての意欲, 目的, 志向性をみるために, 小論文, 面接及び提出書類(調査書等)と合わせて総合的に判断して選考します。

夜間主

・一般入試(前期日程) :《総合的な学力重視型》

基礎学力をみるため大学入試センター試験(6教科7科目)を課し、個別学力試験では2つの方式に分けて多様な個性と総合的思考力を評価します。

A方式(国際的思考系) : 英語(英語運用能力と国際的課題をめぐる思考力を問う問題)

B方式(論理的思考系) : 小論文(論理的思考を測る小論文問題)

・一般入試(後期日程)《実践力重視型》

地域の勤労学生にも配慮するために大学入試センター試験を3教科4科目、又は4教科4科目として受験科目負担に配慮し、個別学力試験(小論文)を〈国際的思考系〉と〈論理的思考系〉に分け、多様な個性と実践力を重視して選考します。

A方式(国際的思考系) : 小論文(英語資料読解による小論文)

B方式(論理的思考系) : 小論文(論理的思考を測る小論文問題)

・推薦入試 I《人物・意欲重視型》

学びに対しての意欲, 目的, 志向性をみるために, 小論文, 面接及び提出書類(調査書等)と合わせて総合的に判断して選考します。

・社会人特別入試《学び直しの意欲重視型》

学びに対しての意欲, 目的, 志向性をみるために, 小論文, 面接及び提出書類(調査書等)と合わせて総合的に判断して選考します。

上記のほか、帰国子女特別入試、私費外国人留学生入試及び3年次編入学試験を実施する予定。